

みはるかせ

広き世界を！



■発行：米子西高校 PTA 人権教育部

1・2年次生の人権教育LHRでは、10月11日（水）に2年次生、18日（水）に1年次生の人権教育講演会、11月1日（水）に1・2年次生の公開授業と意見交換会が行われました。今回はその時の様子をご紹介します。

＜1年次生 人権教育講演会＞

講演「あいサポート研修～障がいを知り、共に生きる～」

講師 赤井 寿美さん(NPO法人鳥取県障害者就労事業振興センター・あいサポートメッセンジャー)

「あいサポート運動」は誰もが様々な障がいの特性、障がいのある方が困っていること、障がいのある方への必要な配慮を理解して、障がいのある方に対してちょっとした手助けや配慮などを実践することで、障がいのある方が暮らしやすい社会をみんなで作っていくことを目的とした運動であること、そして平成21年に鳥取県から始まった運動であることを紹介してくださいました。

また、社会的障壁（一人ひとりの無理解や配慮不足・慣行・観念）をのりこえるためには、一人ひとりが、様々な障がいを正しく知ることが大切であることを、DVDを見ながら、時間をかけて説明してくださいました。

この人権教育講演会を通して学んだ全員に「あいサポートバッジ」（右の写真）が配布され、共生社会を実現する一員としての意識を高めました。



～生徒の感想より～

- 障がいのある人もふくめ、すべての人が過ごしやすい社会をつくるためにも、自分の行動を考えていきたい。
- 一人ひとり障がいの状態が違うことがわかった。
- 一人ひとりにあわせて接していくことが大切である。
- 勇気を出して声をかけることができる人でありたい。



＜1年次生 人権教育公開授業・意見交換会＞

人権教育講演会后、障がいのある方が困っているときに、手助けをしたことがあるかないかについて、その理由を自問自答し、様々な資料や体験学習を通して、自分自身をふりかえりました。障がいのある方一人ひとりが、日常生活でどのようなことに困っているか、相手の立場に立って考える活動をしました。そして、共生社会を実現するために、どのように行動するか、意見交換を通して考えを深めました。

～生徒の感想より～

- 授業の中でいろいろな資料を見て考えたり、グループで意見交換する中で、自分の考えを整理したり、改めたりすることができた。
- 相手の立場に立って考えることは、口で言うほど簡単なことではないとわかった。
- 共生社会を実現するためには、当事者の意見をきちんと受け止めながら取り組まなければいけない。



～保護者の感想より～

- このような機会に、仲間としっかり対話をして、日頃気付けないことについてしっかり考えて、今後の生活につなげてほしい。